



「JA青年組織手作り看板全国コンクール」
入賞おめでとう！

(完成を祝し記念撮影するJA今金町青年部の皆さん)

前田一男衆議院議員・内田尊之道議会議員と青年部が意見交換を行いました



▲質問に答える前田代議士



▲伊藤司 会長

部が加盟する「檜山北部プロック青年部協議会（会長・伊藤司さん）」の主催による学習会が当JAにて行われました。

この学習会は、TPPをはじめ、近年の農業を巡る情勢変化について国會議員を招き意見交換を行ふことで見識を深め、青年農業者層の意見を今後の方策に反映してもらおう、という目的で企画されました。当日は、前田一男衆議院議員・内田尊之道議会議員にお越し頂き、意見が交わされました。

参考
参加者からは『家族経営がないがしろにされ、法人化・規模拡大等に政策が偏っている』『TPPを踏まえて、投資は必須と考えるが将来それを回収していくけるか不安がある』『産地パワーアップ事業はどのようなもので、どう活用できるのか』他、活発な意見交換がなされました。現場の声を地元代議士に伝えるといふ今回の取り組み、一人一人の声は小さいかもしれないが組織の力を活かすという意味でも、意義あるものになつたのではないか。』

「看板コンクール」JA今金町青年部が全国消費者団体連絡会賞を受賞！



▲すべて手づくり！丁寧に色を塗つていきます。

全国農協青年組織協議会主催による、「手づくり看板制作運動」ながらびに「全国コンクール」において、JA今金町青年部がJA、JA青年部活動に貢献した看板が、見事入賞し「全国消費者団体連絡会賞」を受賞しました。

この取り組みは、農業、JA、JA青年部活動に関する、農業関係者、地域住民が共感を持つ手づくりの看板を通じ、農業のある地域づくりの大切さを地域の住民に対してアピールする事を目的として行われており、優秀な手づくり看板の作成促進をはかる為に全国コンクールもあわせて実施されています。

テーマは「荒ブル」。「ブル」の造語で、中心に今金男しゃくを用いつつ、若者の荒々しさを黒毛和牛とホルスタインの毛和牛とホルスタインの衝突で表現しています。

制作は昨年11月、5日間かけて行われチーフの坂本好史さん・サブチー坊の宮本翼さんを中心として延べ約40名の部員が制作に携わりました。2月17日に行われる第62回JA全国青年大会で表彰される予定です。



▲Ara Bull(あらぶる)という造語のアイデアは坂本さん発案との事

西宮神社「十日えびす」 本年も「今金米」「今金男しやく」を奉納させて頂きました



▲奉納された「今金米」「今金男しやく」

兵庫県西宮市の西宮神社で毎年1月9日から11日までの3日間開催される「十日えびす」は、関西における最大の祭典として広く全国に知られ、毎年百万人を超える参拝者が福を求めて訪れます。

本年も昨年に引き続き、「今金米」、「今金男しやく」を奉納させて頂き、本町より外崎町長、小田島組合長ほか、生産者、JA職員らが代表して参拝致しました。福の神である恵比寿様にあやかり、本年も豊穰の秋となる事をお祈り申上げます。



▲賑わう境内の様子



▲神事を前に記念撮影



▲境内を走る恒例の「開門神事 福男選び」へも生産者・職員らが初参加致しました

『檜山北部試験成績発表会』開催



▲生産者の方々のご協力があっての試験です
今後もご協力のほど宜しくお願ひ致します

檜山北部試験成績発表会が1月21日普及センターにおいて開かれ、生産者・関係者など約30名が出席しました。内容としては、「水稻における珪酸資材の施用比較試験・有機栽培等に関する試験」「春まき小麦の緑肥同伴栽培試験」「大豆除草剤効果確認展示」「ブロッコリーのチヨウ目害虫に対する効果確認」「稻ソフトグレインサイレージの製造・給与試験」について発表が行われました。次年度も現地で活用できる様々な試験を実施していく

『道南地区農業法人セミナー』開催



▲熱弁を振るう北海道農業会議 佐藤 業務部長
「法人化なんて自分には関係ない」という方でも、農業経営者であれば一聴の価値あり！きっと経営のヒントが見つかります。

1月26日、道南地区農業法人セミナー（主催・檜山振興局）がせたな町にて行われました。講師には、愛別町「（有）協和農産代表取締役中山英一氏」や、昨年11月に当町で行われたセミナーに引き続き、北海道農業会議の佐藤部長らが招かれ、法人・地域のこれらについて分かりやすく、そして熱くお話し頂きました。2月には本町で佐藤氏らによる個別相談会も予定されており、特に若手経営者の方は是非ご参加下さい！

農業価値の向上をけん引する北海道農業 若者がほしがる我が国農業

北海道経済連合会 名誉会長 近藤龍夫氏

昨年11月JA北海道大会で開催したパネルディスカッションでパネリストの皆さんから提言頂きました「北海道農業とJAグループに期待すること」を全5回シリーズで紹介します。

第1回は、近藤龍夫氏の提言を紹介します。

意味合いと理解して頂きたい。世界的には、「国土を確保して守ること」、『エネルギーを確保すること』、『農業



農業価値とは農業の存在価値的な意味合いと理解して頂きたい。世界的には、「国土を確保して守ること」、『エネルギーを確保すること』、『農業

を主とする食を守ること』、この3つが国として最低限やらなければならぬこと。

国家的に食・農業を価値ある重要なことと位置付けている国がたくさんある。食・農業を大事にしなければならない。しかし、わが国では、農業の重要性、農業価値が忘れられてきた感がする。将来的には世的な食料危機がささやかれ始めており、今こそ農業の重要性の国民的な理解が必要。政治や、幼少教育の場などを通じて農業立国北海道が率先して理解活動を行っていくべき。この理解こそが正しい農業の普及につながる力になる。

北海道が率先して国民への農業価値理解活動を

このような生産環境づくりの政策提言や生産活動の推進すなわち農業価値向上のけん引役として、北海道が産学官一体となつて国を動かして実現を目指すべき。

これらが実現してこれまでの猫の目のように変わる対策型の政策ではなく不動の政策となれば、國民とりわけ農業者の望むところであつて、「若者が欲しがる農業」として目指すところが明確になるので、将来に希望がもてる北海道農業が実現していくのではないかと信じている。行く

心して生活し、生産に励むことができるよう守るべくところは守るなどして、生産環境を整備していく必要がある。

これからが実現してこれまでの猫の目のように変わる対策型の政策ではなく不動の政策となれば、國民とりわけ農業者の望むところであつて、「若者が欲しがる農業」として目指すところが明確になるので、将来に希望がもてる北海道農業が実現していくのではないかと信じている。行き

べき時に来ている。やはり、北海道から発信していくのが一番素直な姿であり、スタートポイントになつて欲しい。

そろそろ日本の農業構造を変えるべき時に来ている。やはり、北海道から発信していくのが一番素直な姿であり、スタートポイントになつて欲しい。

最後に一言

標になつていて。

そのためには生産、加工、流通、販売、それぞれがこれからの農業には特に科学的に、そして経済学的にも世界の最先端、高度化を図つて日本農業をリードする、そんな北海道農業になつて頂きたい。

北海道農業実現に向け國の制度づくりを

積極的に中央に出でていき、国の制度作りに参加する。北海道農業に近い制度をつくるようにもつていく。それには農業者だけでなく、北海道大学にもなつてもらう。また、例え農業に経済的なセンスを入れるときも、経済家ではなく、農業経済は農家がやれるよう北海道大学に力を任せたおけというくらい、農業者は日本経済全体にも関わっていく力をを持つべきで、農業の専業地帯である北海道から発信するのが産学連携の形である。

度作りに参加する。北海道農業に近い制度をつくるようにもつていく。それには農業者だけでなく、北海道大学にもなつてもらう。また、例え農業に経済的なセンスを入れるときも、経済家ではなく、農業経済は農家がやれるよう北海道大学に力を任せたおけというくらい、農業者は日本経済全体にも関わっていく力をを持つべきで、農業の専業地帯である北海道から発信するのが産学連携の形である。

度作りに参加する。北海道農業に近い制度をつくるようにもつていく。それには農業者だけでなく、北海道大学にもなつてもらう。また、例え農業に経済的なセンスを入れるときも、経済家ではなく、農業経済は農家がやれるよう北海道大学に力を任せたおけというくらい、農業者は日本経済全体にも関わっていく力をを持つべきで、農業の専業地帯である北海道から発信するのが産学連携の形である。

近藤 龍夫 氏
(こんどう たつお)
北海道経済連合会 名誉会長
公益社団法人
北海道観光振興機構 会長



組合員の皆様へ

JAフルスペックローンキャンペーン

期間限定実施のご案内

平成28年2月1日(月)～3月31日(木)まで、期間限定で実施致します。

うれしい固定金利

年 1.70%

さらに1%利子助成

※利子助成には一定の要件がございます。

農機具や関連商品の
購入、点検・修理・購入
に付帯する諸費用、格
納庫建設費用にもご利用頂けます。



お問い合わせ先：JA今金町貯金融資課(前川、成田) 82-0211

※金利表示は保証料を含みません。金融情勢の変化により金利を見直しさせて頂く場合があります。

インターネットを利用したクミカンデータ照会サービスのご案内

J Aではクミカンの取引内容等を照会できるサービスを提供しております。ご自宅にインターネットに接続されたパソコンをお持ちの方は、下記のサービスを有料で利用できます。ソリマチ簿記にも活用できますので是非ご利用ください。

【サービス内容】

指定した期間内のクミカン取引内容、現時点のクミカン残高（供給限度額・要精算額・取引累計等）を照会できます。また、データのダウンロード(CSV形式・ソリマチ簿記形式)も可能となっております。

【利用料金】 900円／年（消費税別）

【お申し込み・お問い合わせ先】 JA今金町管理課まで 電話 82-0211



組合員の皆様へ人間ドック受診の宿泊サービスのご案内



皆様、人間ドックは受診されているでしょうか？農業はカラダが資本。健康が第一です。

春耕期を前に、カラダのメンテナンスとして積極的に受診しましょう！旦那さんだけでなく、奥様方も是非下記のサービスをご利用下さい。

【サービス内容】 3月・4月・5月は札幌厚生病院にて宿泊料金を全額負担いたします。

※上記以外の月については、一部ご負担いただきます。また、お食事代金等は含まれておりません。

※観光シーズンはホテルの混雑が予測されますので、お早めにお申し込み下さい。

【宿泊ご負担金】

- ◆1月・2月・6月 【シングル 3,000円/1名】 【ツイン 2,000円/1名】 【トリプル 1,500円/1名】
- ◆7月・8月・9月 【シングル 7,000円/1名】 【ツイン 4,000円/1名】 【トリプル 3,500円/1名】
- ◆10月・11月・12月 【シングル 4,000円/1名】 【ツイン 2,500円/1名】 【トリプル 2,000円/1名】

【対象となる宿泊】 札幌厚生病院にて人間ドックを受診いたたく方の前泊1日分

【宿泊先】 ○ホテルクラビーサッポロ 中央区北2条東3丁目
○札幌全日空ホテル 中央区北3条西1丁目
○ニューオータニイン札幌 中央区北2条西1丁目

※宿泊先は申込日により上記3施設の中から札幌厚生病院にて振分いたします

【お申し込み・お問い合わせ先】 JA今金町管理課まで 電話 82-0211



昨年27年度の作物生育状況と次年度に向けて



《生育概況》

は種期(4/17)及び出芽期(4/25)は平年並。5月も好天で、作業は順調、苗素質も良好。移植期(5/24)は4日早く、活着良好。6月上旬の異常高温や強風で植傷みも見られた。活着は並。分けつ始(6/6)までは順調(4日早)に進んだが、6月下旬は曇天が続き、幼穂形成期(7/3)は2日遅。7月上旬の低温で念実への影響が懸念されたが、中旬以降は高温傾向となり、出穂・開花は順調。出穂期(8/1)は2日遅かったが、高温が続き念実や登熟性は高まった。8月下旬から低温傾向となり、一時停滞したが、9月上旬の好天で登熟が進み、成熟期(9/16)は平年並となった。収穫期(9/25)は平年並であった。

穂数はやや少(95%)、1穂粒数は少(86%)、m²総粒数は少(81%)となった。稔実歩合は高く(106%)、m²稔実粒は少(86%)。収量は484kg/10a(88%)と少なかつたが、肩米は多かった(112%)。千粒重はやや軽(97%)、品質は良好、蛋白は高い傾向となった。

《次年度に向けて》

- ・融雪促進とほ場の乾燥化促進、透排水性改善に全力を！
- ・ほ場管理をおろそかにせず、基本技術の励行を！

《収量要素》

m ² 穂数	～ 557 (588) 本	一穂粒数	51.6 (60.2) 粒
子実重	～ 484 (552) kg	一等比率	46 (41) %

秋播小麦



《生育概況》

は種作業は、一部ほ場で遅れたが、は種期(9/23)は平年より1日早くなつた。融雪期は2日早まり、降雨が少なかつたため、起生期(4/4)は4日早となつた。生育は順調に経過し、幼穂形成期(4/28)で3日早、止葉期で5日早、出穂期で4日早であったが、7月上旬の低温で成熟期は3日遅くなつた。

収穫作業は平年より3日遅く始まり、収穫終は4日遅くなつた。子実重は平年比91.4%、赤かび病の発生もなく、品質も良好であった。

《次年度に向けて》

- ・茎数確保のため、起生期からの適正な施肥を実施する
- ・「きたほなみ」では子実の充実を図るため、止葉期追肥を行う
- ・透排水性の良いほ場づくりに取り組む
- ・適正は種と雪腐病防除の実施に努力する

平成27年は、融雪が平年より早く、4月下旬～5月上旬が好天となり、春作業は順調に進みました。その後も気温は平年並～上回る状況で、6月は少雨傾向となり、農作業や生育は順調に経過しました。6月下旬～7月上旬に一時低温、7月下旬～8月中旬は高温傾向となりました。

低気圧や台風等の影響もありましたが、大きな被害は出ませんでした。
普及センターの作況調査の結果を振り返り、次年度に向けた対策を考えます。
※収量は10a当たり、()内は平年値



《収量要素》

規格内収量 [露地 3,368(3,172)kg 早出し 3,466(3,179)kg]

澱粉価 [露地 14.3(13.8)% 早出し 14.6(14.0)%]

《生育概況》

[露地] 植付期 (4/29) は平年より 13 日早くなった。植付後は高温で推移し萌芽期 (5/23) は 11 日早、着蕾期で 9 日早、開花期、茎葉黄変期も 9 日早まった。一部のほ場で疫病が発生し被害が出た。8月中旬にまとまった降雨があったが、収穫始 (8/24) は 9 日早く始まった。いも数は平年比 120.7% と多く、上いも 1 個重は 99.1%、上いも収量は 123.1% と高く、規格内収量、澱粉価も高かった。

[早出し] 植付期 (4/26)、萌芽期 (5/18)、着蕾期 (6/5)、開花期 (6/18) で 8 日早、終花期で 9 日早まった。病害虫の発生は少なかった。収穫期 (8/4) は 4 日早、上いも 1 個重は平年比 96.2% であったが、上いも収量は 114.2%、澱粉価は 104.2% となった。

《次年度に向けて》

- ・有機物施用を計画的に行い、土壤の改善 (物理性・化学性) を図る
- ・培土は適正水分で行い、十分な土量と安定した形状を維持する
- ・高温時は、収穫物をほ場に放置せず、貯蔵前に十分キュアリングする



《収量要素》

着莢数 { さや数 } [大豆 496 (383) 莖 / m² 小豆 412 (481) 莖 / m²]

子実重 [大豆 267 (241) kg 小豆 266 (236) kg]

《生育概況》

[大豆] 好天により、は種期 (5/26) は平年対比で 5 日早まった。は種後の適度な降雨により出芽は良好であった。6月下旬～7月上旬は低温で推移したがその後回復し、開花期 (7/31) は平年並となった。その後の登熟も進み成熟期 (10/11) は 2 日早まった。着莢数は平年より多く (130%)、子実重は平年比 111% となった。生育後半に降雨が少なかったため、裂皮、しわ粒の発生が少なかった。

[小豆] は種期 (6/3) は平年より 2 日早まった。は種後の適度な降雨により、出芽は良好であった。6月下旬～7月上旬の低温で一時生育が停滞したため、開花期 (8/2) は 1 日遅れとなった。その後の登熟が緩慢に進んだことで成熟期 (9/11) は 4 日遅れとなった。着莢数は平年より少なかった (86%) が、百粒重が重かった (124%) ため、収量は平年比 113% となった。

《次年度に向けて》

- ・干ばつや湿害回避のため、心土破碎等を行い、根域の拡大を図る
- ・豆類の連作や交互作を避け、適正な輪作体系を守る



《収量要素》

根重 7,609(7,083)kg 茎葉重 3,775(4,155)kg 根中糖分 17.6(17.5)%

《生育概況》

は種期 (3/19) は、平年並。移植期 (5/3) は平年より 4 日早まった。移植後の活着は良好で、初期生育は順調であった。病害の発生も少なく、根部の肥大も良好であった。収穫期 (10/30) は平年より 7 日早かった。収量は平年比 107% で、根中糖分は平年並であった。

《次年度に向けて》

- ・pH の改善や透排水性の良いほ場づくりを行う
- ・完熟堆肥により地力向上を図る
- ・生育後半の雑草対策 (草取り) を実施する

JA今金町女性部プレゼント
簡単！美味しい！「今金男しやく」お役立ちレシピ



じゃがいものおやき 岸 幸子

【材料 2人分】

男爵いも・・・・・・ 200 g
ごはん・・・・・・ 200 g
ホウレン草・・・・・・ 適量
小松菜・・・・・・ 適量
人参・・・・・・ 適量
片栗粉・・・・・・ 大さじ5
黒ごま・・・・・・ 少々
しらす・・・・・・ 30 g
油・・・・・・ 適量

【作り方】

- ① いもは茹でて、熱いうちにごはんと混ぜて冷ましておく。
- ② 野菜は熱湯を通り、みじん切りにする。
- ③ ①と②にを混ぜ、黒ごま・片栗粉を入れてこねる。
- ④ 小判型に形を整え、フライパンまたはホットプレートに油を引き、両面を焼いて出来上がり。



ちなみに

野菜は彩りを見ながら旬の物をお好みで。農作業のおやつにもなります。